



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を行った。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



「コタン探訪帳」と「コタン探訪日記」



熊狩りで泊まった洞窟の前で
右から八重九郎翁、大下カメラマン、永田洋平

「コタン探訪帳」から

「コタン探訪帳」は、更科が生涯の仕事とした「アイヌ文化」の謎を探し当てるための取材ノートです。ノットは1950(昭和25)年10月から始まって、1970(昭和45)年3月まで全部で19冊と、別冊「コタン探訪日記」があります。更科が一人で、あるいは仲間たちと北海道内のコタンを訪ね、古老たちからアイヌの人たちの言葉を教えられ、その言葉の奥にある精神文化の手がかりになるものを探し、書き留めたものです。

このノットが、更科がアイヌ文化を著した作品の数々を生む底本となっていて、その中で動植物に関するものには、屈斜路コタンの古老が語ってくれたものを書きまとめ、1942(昭和17)年に発表した「コタン生物記」があります。これを全編書き改め、1976(昭和51)年に刊行したのが「コタン生物記I・II・III」です。「コタン生物記」の動物267の項目を書き直したほか、さらに230項目が追加されています。

このノット類の、ある1ページに、更科と仲間たちが雪裡釧路管内鶴居村に住む古老を訪ね、知床山中の熊狩りに同行させてもらったことができたときのことが書かれています。

「コタン探訪帳」は、更科が生涯の仕事とした「アイヌ文化」の謎を探し当てるための取材ノートです。ノットは1950(昭和25)年10月から始まって、1970(昭和45)年3月まで全部で19冊と、別冊「コタン探訪日記」があります。更科が一人で、あるいは仲間たちと北海道内のコタンを訪ね、古老たちからアイヌの人たちの言葉を教えられ、その言葉の奥にある精神文化の手がかりになるものを探し、書き留めたものです。

このノットが、更科がアイヌ文化を著した作品の数々を生む底本となっていて、その中で動植物に関するものには、屈斜路コタンの古老が語ってくれたものを書きまとめ、1942(昭和17)年に発表した「コタン生物記」があります。これを全編書き改め、1976(昭和51)年に刊行したのが「コタン生物記I・II・III」です。「コタン生物記」の動物267の項目を書き直したほか、さらに230項目が追加されています。

このノット類の、ある1ページに、更科と仲間たちが雪裡釧路管内鶴居村に住む古老を訪ね、知床山中の熊狩りに同行させてもらったことができたときのことが書かれています。

と語りました。

自然界の絶妙な力の平衡を乱すことへの戒めであって、自然界(神々の世界)へ敬虔な気持ちで臨むアイヌの人たちの精神文化の一つを更科たちは教えられていたのです。

★特集展示
『ノンフィクション』事実は小説よりも奇なり』
どんなフィクション小説よりもリアルで複雑。時には理解し難いものもあるけれど、だからこそ面白いものです。どう考え、行動を起こしたのか。試練をどう乗り越えていったのか。実際に起こった事柄だけに、話に引き込まれていきます。

▼期間/10月1日(水)~10月31日(金)
▼場所/特集展示コーナー

★カードの紛失に気がつけて
最近、利用カードを紛失される方が多くみられます。別のカバンに入っていた、返却した本の筒に挟まっていたなどで見つかることがあります。使用したカードをそのままにせず、カードケースなどを利用することをおすすめします。

▼今日の休館日/6日(月)・13日(月)・体育の日・20日(月)・27日(月)

ESHIKAGA
図書館だより
中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

新刊案内

「働かないオジサンになる人、ならない人」 楠木 新/著
「じぶんリセット」 小山 薫堂/著
「熱狂なきファシズム」 想田 和弘/著
「サクッとー化学実験」 山田 暢司/著
「自分で決める人生の終い方」 樋口 恵子/著
「子育てハッピーアドバイス笑顔いっぱい 食育の巻」 吉村 龍一/著
「かたつのも」 中川 ひろたか/著
「オロマップ・森林保護官樋口孝也」 中川 ひろたか/著
「うそ」 ジル・バシユレ/作
「不思議の国のシロウサギかあさん」 中川 ひろたか/著

東京タクシードライバー 山田 清機/著
13人の運転手を見つけた現代日本・ノンフィクション。事実は小説より切なくて、少しだけ温かい。夢破れても人生だ。夢破れてから人生だ。著者の価値観がにじみ出る「長いあとがき」にも感動です。

おすすめの最新刊

散策のときにご利用ください
和琴フィールドハウスは、今年7月15日に新設された和琴半島の利用拠点です。館内には開花情報のほか、樹木や野鳥、小動物などが実物標本で展示されています。屈斜路湖と和琴半島、オヤコツ地獄の成り立ちなども解説していますので、より理解が深められると思います。ガイドマップもご用意していますので、お気軽にどうぞ！
今シーズンは10月31日(金)まで開館しています。
▶開館時間/8時~17時
▶入館料/無料



木の手すり漂うフィールドハウスへ

EMC通信
～川湯の森から～
緑一色だった風景の中に、カラフルな色が見られる時期となりました。今月のおススメは和琴半島の町内でも屈指の紅葉スポット、オオカメノキ、ナナカマド、ミズナラ、オヒヨウなど、葉の色が変わったり、このころに実が目立つようになる樹木が多く見られるためです。カッラ鼻も楽しめる。

自分なりの楽しみ方を見つけに
ませてくださいよ。甘い匂いが漂ってきたら、近くでかわいらしいハート形の葉が地面に降り積もっているはずですよ。散策路上に落ちて葉を踏みしめると聞こえてくるカサカサという音も、耳に柔らかく響きます。色づき始めから散りぎわまで、刻々と違った表情が繰り広げられます。すっかり葉が落ちて木の枝だけになると、太陽の光が足元まで降り注ぎ、目前に迫った冬に備えて力を蓄えているような感じがします。

「なぜ秋になると葉の色が変わるのかな?」「どうして葉が落ちるの?」「なにを考えると、ただただ歩くのもよし。何も考えずに撮るのもよし。自分なりの楽しみ方を見つけると、散策が一層楽しくなりますよ。」

川湯エコミュージアムセンター(EMC)
☎483-4100 URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 10月は8:00~17:00開館(無休)